



2010年3月期
株主通信
2009.4.1 → 2010.3.31



すべての人に最高の余暇を

フィールズ株式会社
証券コード：2767



会長メッセージ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より格別のご支援、ご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

21世紀の成熟化する社会においては、医療やテクノロジーの進化によって長寿命社会をもたらし、人々の余暇時間は確実に増加しています。人々は、その嗜好によって時間消費の多様なニーズを生み出しており、ここには多くのビジネスチャンスが存在しています。

「すべての人に最高の余暇を」という企業理念を掲げる当社は、この増加をたどる余暇時間に対して商品及びサービスを提供する企業グループであり、最高のエンタテインメントを提供することで、多くの人々の幸せに寄与していくことを使命としています。

この使命のもと当社は、人々の心を豊かにする余暇時間の高まりをいち早く予見し、様々な要素の情報収集、分析、研究を重ね、自らが市場を切り拓くことで新たな顧客層を創造していくこと、つまり新たなエンタテインメントの創造に向けた挑戦を続けています。そのためには、長期的ビジョンから未来を見据え、最先端のクリエイティブと最新の技術を結集・融合し、高品質なエンタテインメントを生み出し続けることが必要不可欠であり、当社は確固たる信念をもって推進しています。

2003年の株式上場時には、将来を見据えた成長戦略の一環として、コンテンツを中核としたビジネススキームを掲げました。着実な歩みを続け、幅広いエンタテインメント領域に進出している現在でも、このコアモデルは進化を遂げながら力強く生きています。今般、このスキームを深化・確立させるために、多様な専門分野を担う3企業を新たに当社グループへ迎え、パートナー企業との連携を強固にするなど、より一層の飛躍に向けた諸施策を推進しました。このような未来への布石の一つひとつが、長期的ビジョンの実現に結びつき、当社グループの収益機会の創出及び企業価値が高められるものと確信しています。

私たちは、人々が新鮮な感動や驚きを体験できるエンタテインメントを創造し、余暇市場全体の発展、そして社会全体の幸せに寄与することによって、大きな成長を遂げられるよう全社一丸となって邁進していきます。

株主の皆様におかれましては、当社グループが次世代に向けた挑戦によって切り拓く未来にご期待頂き、引き続きのご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2010年6月

代表取締役会長 (CEO)

山本英俊



2010年3月期
株主通信
2009.4.1 ● 2010.3.31

Contents



- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 01 会長メッセージ | 09 企業の社会的責任 (CSR)への取り組み |
| 02 トップインタビュー | 10 連結財務諸表(要約) |
| 08 TOPICS
新規グループ会社のご紹介 | 14 コーポレートデータ |

A portrait of Hideo Yamaoka, CEO of Fields Corporation, wearing a dark suit and a light blue patterned tie. He is smiling slightly and looking towards the camera. The background is a light-colored wall with some faint markings.

すべての人に最高の余暇を
THE GREATEST LEISURE FOR ALL PEOPLE

代表取締役会長 (CEO)
山本 英俊

- 15 株式情報
- 16 IRコミュニティ
- 17 第三者によるフィールズの分析レポート

社会に豊かさをもたらすエンタテインメント企業を目指して。



代表取締役社長(COO)
大屋 高志

「すべての人に最高の余暇を」の実現に向けて

今の日本の社会において余暇時間が増え続けることは間違いありません。それは、かつての高度成長期を経て豊かになり、医療やテクノロジーの進化によって創出された長寿命社会が証明しています。私たちはこの余暇を最高のものにするために、進化するエンタテインメントのあり方をいち早く予見し、ビジネスチャンスを見出してきました。そして、世の中の人々がまだ欲してすらいない、体感して初めて最高と感じるエンタテインメントを創出することを社会的な使命と捉え、PS、映像、モバイル、アニメ、出版、スポーツ等の幅広いエンタテインメント分野で事業を展開しています。

その根幹は、企業理念である「すべての人に最高の余暇を」の実現です。この企業理念を追求し、社会の幸せを考え続ける者や企業の集まりがフィールズであると考えています。この先も世の中の人々が求める、あるいは想像さえしえない最高の商品やサービスの創出を通じて余暇市場の持続的な発展の一翼を担い、社会に豊かさをもたらすエンタテインメント企業として持続的な成長を成し遂げていきます。

「挑戦が、未来を創る」

昨今、テレビCM等を通じてご覧になられたこともあると思いますが、私たちは「挑戦が、未来を創る」というメッセージを掲げています。これは、フィールズのこれまでも、今も、そしてこれからも変わらない企業姿勢を表したものです。そして会長の山本も触れていますが、自らが挑戦することで市場を切り拓き、新たな顧客層を創造していくという道程そのものと考えています。私たちフィールズは今後もこの姿勢を貫き通し、企業理念である「すべての人に最高の余暇を」の実現に向けて全社一丸となって邁進していきます。

2010年3月期の総括

2010年3月期、売上高は663億円、営業利益は81億円、経常利益は77億円、そして当期純利益は32億円となりました。

売上高は(株)ディースリーの株式売却に伴い同社が連結対象外となったため若干減少しましたが、収益面はエンタテインメント事業(グループ事業)における収益の改善が顕著になったこと、PS事業における遊技機の販売が好調に推移したことにより増益となりました。なお、PS事業については、シリーズ最高販売台数を記録した「CR新世紀エヴァンゲリオン～最後のシ者～」や新たな取り組みに挑戦した「CR清水の次郎長～命の絆～」等のパチンコ遊技機5機種(合計約33万台)を販売するとともに、シリーズ最新作となる「新世紀エヴァンゲリオン～魂の軌跡～」やロデオ10周年記念の第一弾となる「新鬼武者」等のパチスロ遊技機6機種(合計約12万台)を販売し、市場から高い評価を頂きました。

2010年3月期発売の主な遊技機

● パチンコ遊技機



CR新世紀
エヴァンゲリオン
～最後のシ者～

©カラー
©カラー・GAINAX
©Bisty



CR清水の次郎長
～命の絆～

©FIELDS
©Bisty



新世紀
エヴァンゲリオン
～魂の軌跡～

©GAINAX・カラー
/Project Eva.
©カラー
©Bisty



新鬼武者

©CAPCOM CO.,LTD.
ALL RIGHTS RESERVED.
©Sammy ©RODEO

「新鬼武者」は株式会社カプコンの登録商標です。

● パチスロ遊技機

2011年3月期の見通し

まず2011年3月期のスタートにあたり、事業の実態及び進化に合わせた組織としてエンタテインメント事業及びPS事業の2事業体制に移行しました。これは、ビジネスのスピードを加速させるとともに有機的な事業展開を図るものです。

エンタテインメント事業では事業規模の大きい3企業を新たにグループに迎え入れ、コンテンツを中核としたビジネススキームを確立し、足元の業績もさることながら未来のあるべき姿の実現に向けた取り組みに注力していきます。

一方PS事業では、ビスティブランドの強化に加え、京楽産業.(株)との提携第一弾パチンコ遊技機やロデオ10周年記念タイトルシリーズとなるパチスロ遊技機等の販売を計画しています。

2011年3月期 通期見通し

(単位:百万円)

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
80,000	11,000	11,000	5,500

中期経営計画については2011年3月期で3カ年が経過しますが、その方向性は変わることなく順調に歩みを進めています。特に、目標達成に向けた基盤構築として数年をかけて進めてきたグループポートフォリオの再構築とPS企画・開発力の強化については、いずれも順調に進捗しています。今後はグループ収益基盤を確立し、中期経営計画の達成に向け総力を挙げ取り組んでいきます。

新たなエンタテインメントを楽しむファンを創造する。

エンタテインメント事業の重要性

私たちフィールズはエンタテインメント事業及びPS事業から成り立っています。しかし、収益の柱として大きな存在感を示すPS事業は基本的にはドメスティックな事業であり、少子化や社会的な制限等の要因を考えると今後もそこに留まり続けていてはグループとして劇的な成長は難しいと考えています。こうした背景も踏まえ、私たちの成長を見据えたときに重点的に取り組むべきと判断したのがエンタテインメント事業であり、長期的な戦略、つまりコンテンツの一次利用のみならず、その先にあるマルチユースを見据えた展開を目指していることをまずご理解ください。

優良コンテンツの創出に向けて

近年の金融危機を契機としてコンテンツ市場は大きな変革期を迎え、優良コンテンツはあらゆるメディアで成功を収める一方、それ以外のコンテンツは成功の機会さえ与えられないという厳しい現実があります。コンテンツのマルチユースを先導する私たちは、このような環境をいち早く予見し、あらゆるメディアに対して有効なコンテンツのあり方を調査・研究してきました。そして、過去から存在し世の中の人に親しまれているレジェンドコンテンツ及び現代の思想を取り込んで作られたニューコンテンツの2種類を重要なコンテンツとして位置付け、その創出に向けたさらなる基盤構築を推進しています。

専務取締役
(グループ事業管掌 兼
事業本部長)
繁松 徹也

今後の方向性

私たちは、エンタテインメント性の高いIP（知的財産）と、そのIPに高付加価値を付与する一流の人材やCG（コンピュータ・グラフィックス）・3D等の最先端の技術を結集・融合することで、優良なハイブリッドコンテンツを作り出せると考えています。そして、作り出されたコンテンツをPS事業をはじめとした様々なエンタテインメント領域で積極的に展開していくというビジネススキームを確立しました。目指すのは、新たなエンタテインメントを楽しむファン層を創造すること、そしてグループに持続的な成長と収益力の向上をもたらすことです。

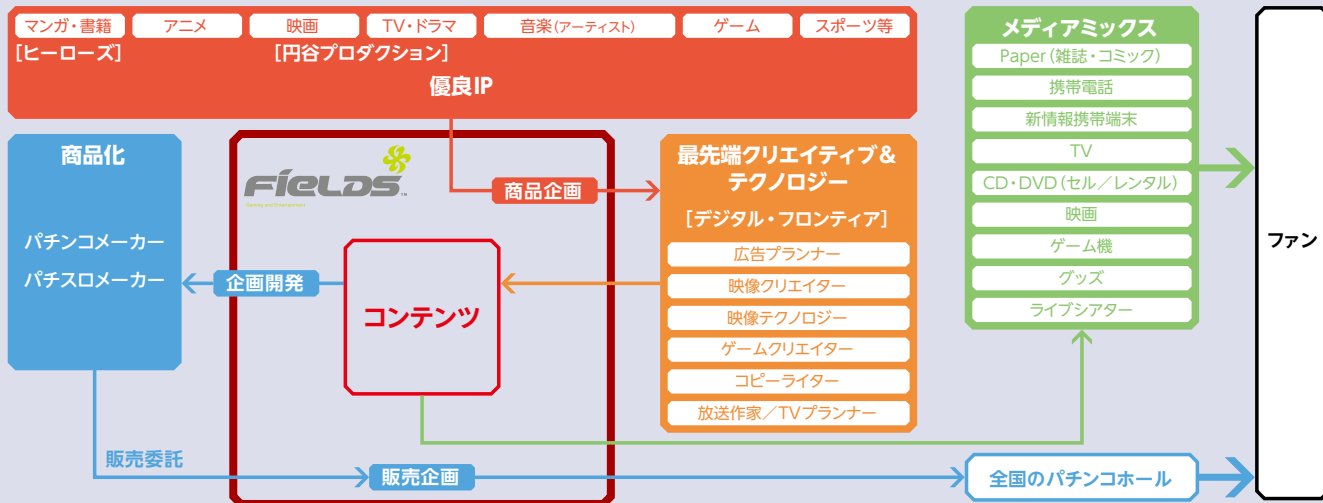
このような取り組みを推進するために、2010年4月には自らが持つ強力なパートナーとして、新しいコンテンツの創出に寄与する(株)円谷プロダクション、(株)デジタル・フロンティア、(株)ヒーローズをグループに迎え入れました。

新たなグループ会社

それぞれがフィールズグループ内でどのような位置付けなのかを簡単にご紹介します。人々に親しまれてきた歴史と現在の価値の両方を持ち合わせるコンテンツ、いわゆるレジェンドコンテンツの代表格である「ウルトラマンシリーズ」等を保有する(株)円谷プロダクションは、そのすばらしいIPをもって国内はもちろんのことグローバルに展開する、つまりグループのポテンシャルを高める大きな起爆剤と考えています。

(株)デジタル・フロンティアは、10数年の歴史の中で培った最先端のCG技術を持つハイブリッドな映像プロダクションです。PSの映像クオリティを急激に上げる可能性を持つとともに、PS以外の事業でもグローバルに勝負できるように共に成長していきたいと考えています。

ビジネススキーム(新規グループ会社の位置付け)



*詳細なビジネススキームにつきましては、IRサイトに掲載の「2010年3月期決算説明会席上配布資料」をご参照ください。

(株)ヒーローズは、これからのコミックのあり方を探るとともに、様々な分野において価値の高いオリジナルのIPを創出することを目的として、(株)小学館クリエイティブと共同で設立しました。今の世の中に必要とされる優良IPを生み出す仕組み作りに向けて共に挑戦していきます。

最後に

今後フィールズグループが大きな成長シナリオを描くために、国内はもちろんのこと海外でも評価を頂けるような新しいエンタテインメントをどんどん仕掛けていき、成長するグラウンドそのものを広げていかななくてはならないと考えています。そのための事業体系は整い、申し分ないパートナーを迎えられる機会にも恵まれました。今までは種まきの時期でしたが、それをグループ全体として育てていく時期に入ってきたということです。

株主の皆様におかれましては、PSだけでないフィールズグループの新たな一面にご期待頂き、引き続き長期的なご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

エンタテインメント性の高い遊技機で、新たなファン層を拡大する。

PS事業の強み

PS事業については私からお話します。

この事業における第一の強みは独立系の流通企業であり、全国にネットワークを整備していることです。私たちは、これらを活用して徹底的なマーケティングを行い、世の中に潜在するニーズを掘り起こし、新たなコンセプトを掲げた商品の企画開発に繋げています。そして第二の強みの企画開発では、世の中にあるクリエイティブや最先端の技術を掛け合わせ、商品のクオリティを最大限まで追求しています。これが一企業のキャパシティの枠に限定されない商品作りを可能とする業界他社には真似できないビジネスモデルです。

そして、これらの強みを集結させ、エンタテインメント性の高い遊技機を創出し新たなファン層を拡大するため、私たちは開発領域の深耕に着手しました。

開発領域の深耕

開発領域の深耕にあたり、まずは知的財産・企画・開発の垣根を取り除き、社内で横断的にプロジェクトチームが組める組織に改革しました。また、子会社には遊技機の映像ソフトウェアの開発機能を担う(株)F(エフ)及び新日テクノロジー(株)を配すると同時に、最先端の映像技術力を有する(株)デジタル・フロンティア及びルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株)等とのグループ間の相乗効果を発揮する開発体制を確立しました。

これにより、今まで得ていた流通部分の利益に加え、企画・開発領域の利益を取り込むことが可能となる一方、企画から流通までの一気通貫した体制によって商品化のスピードを飛躍的に加速させ、新たなファン層を創造する商品を業界に先駆けて展開していきます。

挑戦を続け、未来を切り拓く。

基本的な資本戦略

私たちは引き続き未来に向けた挑戦を続け、積極的な事業領域の拡大を図っていきます。

そのためにも、基本的には安全性を担保したうえでの成長を資本戦略と位置付けており、借入に依存しない健全な財務体質を持続していきたいと考えています。

また株主の皆様に対しては、公約している20%以上の連結配当性向を維持することを前提に、安定かつ適正な配当を実施していきます。

最後に

私たちは、常に先を見据えた経営を行い、世の中の人々の幸せに貢献できる新しいエンタテインメントを創り続けることに挑戦します。そして、この一連の取り組みは、必ずやフィールズグループの企業価値を高め、持続的成長へ導くと確信しています。

株主の皆様におかれましては、是非この想いを共有して頂き、引き続き長期的なご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



2010年4月、(株)円谷プロダクション、(株)デジタル・フロンティア、(株)ヒーローズを新たにフィールズグループへ迎え入れました。

これらパートナー企業とともに、持続的成長を目指していきます。



©円谷プロ

(株)円谷プロダクション (出資比率: 51%)



同社は、世界に通用する「ウルトラマンシリーズ」等の優良IP (知的財産) を数多く保有するコンテンツホルダーとして、テレビ・映画のみならず様々なライフシーンに向けて事業展開を行っています。今後は、当社グループのネットワークを活用した積極的なIP展開に加え、グループ会社との連携による新たなコンテンツの価値創造を目指していきます。



©2009「大怪獣バトル
ウルトラ銀河伝説」製作委員会



サマーウォーズ
©2009 SUMMERWARS
FILM PARTNERS

(株)デジタル・フロンティア (出資比率: 74%)



同社は、業界屈指のCG (コンピュータ・グラフィックス) 技術を有し、映画、アニメ、ゲーム、PS等の多様なエンタテインメント分野に高品質なCG映像を提供しています。今後は、当社グループが保有する優良IPに最先端の映像技術を用いて高付加価値を付与することはもとより、グループ会社との連携により、あらゆる映像エンタテインメント領域においてビジネスを展開していきます。



デスノート
©2006 [DEATH NOTE]
FILM PARTNERS
©大場つぐみ・小畑健/集英社

(株)ヒーローズ (出資比率: 49%)



当社は、日本の出版界をリードし続ける小学館グループの(株)小学館クリエイティブと共同出資により(株)ヒーローズを設立しました。まずは、2010年末を目処に、これまででないコンセプトを掲げた青年向け月刊コミック誌を創刊するとともに、創出されたIPにおいては、PS分野やデジタルコミックス等の多様なエンタテインメント分野にも展開していきます。

企業の社会的責任(CSR)への取り組み

CSRに対する基本的な考え方

当社は、増加をたどる余暇時間を充実させるエンタテインメント性溢れる商品やサービスを通じて「すべての人に最高の余暇」を提供することを使命としています。そして、そのための取り組みを持続的に行うことが、皆様一人ひとりの豊かさのみならず社会全体の豊かさの創造に寄与するものと確信し、事業活動を行っています。これが、当社における企業の社会的責任(CSR)に対する基本的な考え方です。

当社では、この基本的な考えに基づく事業活動の浸透と、企業の社会的責任を果たすことを目的として、2008年5月に全社横断的な組織であるCSR委員会を設置しました。CSR委員会は、その傘下に当社にとって重要となる6つの活動項目を推進するワーキンググループを設け、これらのワーキンググループがそれぞれ主体的にCSR活動を推進しています。

社会貢献トピックス

障がい者雇用促進のための“沖縄事務センター”開設のお知らせ

CSR推進活動の一環として、障がい者雇用を促進する目的で、2010年4月に沖縄県沖縄市に“沖縄事務センター”を新規開設しました。スタッフ採用については、障がい者雇用促進事業を全国的に展開する(株)ウイングルの遠隔地雇用サービスを活用しました。センター開設後、現地スタッフは人事管理諸業務等、当社内の事務系業務に従事し、当該部門の業務生産性の向上にも高く寄与しています。今後も、障がい者の方々への就業機会の創出を積極的に推進するとともに、より働きやすい環境の整備を通じて、より豊かな社会の実現に向けて邁進していきます。



沖縄事務センター オフィス

主要な取り組み

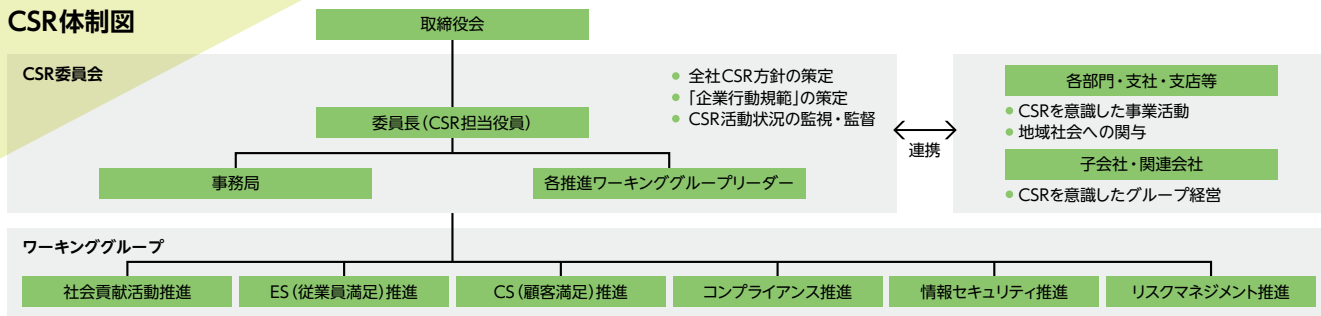
社会貢献活動

- チャリティゴルフトーナメント協賛
- 沖縄事務センター開設
- 複合機の集約化を図り、環境配慮型の省エネ機種へ交換
- CSRサイト公開
- 営業車をエコカーへ切り替え
- チームマイナス6%参加
- エコキャップ活動に協力
- フールビズ(軽装)を推進

その他の活動

- インフルエンザワクチン予防接種推進、費用全額負担
- 社員証認証の新勤怠管理システム導入
- 福利厚生倶楽部(リロクラブ)加入
- 品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001:2000」の認証更新
- 本社・支社及び支店スタッフ向けコンプライアンス集合教育実施
- 鍵ワイヤー(PCセキュリティ)配布
- 社員証認証のセキュアプリントシステム導入
- 情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格「ISO/IEC27001:2005」の認証更新
- 危機管理委員会設置

CSR体制図



連結財務諸表(要約)

現金及び預金

現金及び預金は、15,916百万円(前期末比4,735百万円の増加)となりました。これは、PS事業において遊技機販売が好調に推移したことによるものです。

受取手形及び売掛金

受取手形及び売掛金は、33,088百万円(前期末比28,764百万円の増加)となりました。これは、第4四半期に人気タイトル等を中心としたパチスロ遊技機(仕入販売)を販売したことによるもので、負債の部の支払手形及び買掛金も同様に増加しています。

有形固定資産

有形固定資産は、9,721百万円(前期末比1,177百万円の減少)となりました。これは、東京事務所の建物及び土地の売却、大阪支店の整備に伴う建物等の除却によるものです。

資産合計

資産合計は、81,329百万円(前期末比29,265百万円の増加)となりました。これは、主に現金及び預金の増加、売掛金の増加によるものです。

連結貸借対照表

科 目	前連結会計年度末 2009年3月31日現在	当連結会計年度末 2010年3月31日現在	増減額
資産の部			
流動資産	25,135	56,694	+31,559
現金及び預金	11,181	15,916	+4,735
受取手形及び売掛金	4,324	33,088	+28,764
有価証券	—	48	+48
商品及び製品	150	107	△43
仕掛品	640	1,027	+387
原材料及び貯蔵品	173	385	+212
繰延税金資産	545	807	+262
商品化権前渡金	3,591	2,838	△753
未収入金	3,223	—	△3,223
その他	1,383	2,829	+1,446
貸倒引当金	△77	△355	△278
固定資産	26,929	24,634	△2,295
有形固定資産	10,898	9,721	△1,177
建物及び構築物	3,601	2,976	△625
車両運搬具	7	26	+19
工具、器具及び備品	721	529	△192
土地	6,514	6,170	△344
建設仮勘定	53	18	△35
無形固定資産	2,761	2,333	△428
のれん	326	239	△87
ソフトウェア	2,355	—	△2,355
その他	80	2,094	+2,014
投資その他の資産	13,268	12,578	△690
投資有価証券	7,989	7,865	△124
長期貸付金	101	345	+244
繰延税金資産	1,862	1,124	△738
敷金及び保証金	2,707	—	△2,707
その他	863	3,357	+2,494
貸倒引当金	△256	△114	+142
資産合計	52,064	81,329	+29,265

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度末 2009年3月31日現在	当連結会計年度末 2010年3月31日現在	増減額
負債の部			
流動負債	7,547	35,845	+28,298
□ 支払手形及び買掛金	1,981	26,610	+24,629
1年内返済予定の長期借入金	61	—	△61
1年内償還予定の社債	720	720	—
未払法人税等	263	3,562	+3,299
賞与引当金	211	273	+62
役員賞与引当金	245	135	△110
受注損失引当金	—	11	+11
事務所移転損失引当金	9	14	+5
その他	4,056	4,517	+461
固定負債	5,021	4,295	△726
社債	2,230	1,510	△720
退職給付引当金	221	274	+53
長期預り保証金	2,569	—	△2,569
その他	0	2,511	+2,511
負債合計	12,568	40,141	+27,573
純資産の部			
株主資本	40,420	41,741	+1,321
資本金	7,948	7,948	—
資本剰余金	7,994	7,994	—
利益剰余金	25,808	27,583	+1,775
自己株式	△1,330	△1,785	△455
評価・換算差額等	△957	△676	+281
その他有価証券評価差額金	△956	△676	+280
為替換算調整勘定	△0	0	+0
少数株主持分	32	122	+90
純資産合計	39,496	41,187	+1,691
負債純資産合計	52,064	81,329	+29,265

有利子負債

有利子負債は、2,230百万円(前期末比781百万円の減少)となりました。これは、社債の償還及び1年以内返済予定の長期借入金の返済によるものです。なお、2010年3月末においては、借入による資金調達はありません。

負債合計

負債合計は、40,141百万円(前期末比27,573百万円の増加)となりました。これは、主に買掛金の増加、未払法人税等の増加によるものです。

自己株式

自己株式は、△1,785百万円(前期末比455百万円の増加)となりました。これは、市場買付により自己株式の取得を実施したためです。なお、当社の自己株式取得総数は14,885株(持株比率4.29%)となっています。

純資産合計

純資産合計は、41,187百万円(前期末比1,691百万円の増加)となりました。これは、主に利益剰余金の増加によるものです。

(注:増減額及び増減率については、表上計算しています。)

売上高

売上高は、66,342百万円(前期比9.2%の減少)となりました。これは、2009年3月末に連結子会社であった(株)ディースリーの株式を売却したことによるものです。なお同社は、株式の売却に伴い連結範囲から除外しています。

セグメント情報 売上高

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度	当連結会計年度	増減率 (%)
	2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2009年4月1日から 2010年3月31日まで	
PS・フィールド	55,724	62,379	+11.9
スポーツエンタテインメント・フィールド	3,589	2,416	△32.7
モバイル・フィールド	1,609	1,821	+13.2
その他・フィールド	119	619	+420.2
ゲーム・フィールド*1	12,593	—	—
映像・フィールド*2	10	—	—
消去又は全社	(612)	(895)	—
合計	73,035	66,342	△9.2

営業利益

営業利益は、8,124百万円(前期比314.5%の増加)となりました。これは、PS事業において遊技機販売が好調に推移し売上総利益が増加したことに加え、2009年3月期から実施したグループ組織再編等により、各社の利益体質が強化されたためです。

セグメント情報 営業利益

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度	当連結会計年度	増減率 (%)
	2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2009年4月1日から 2010年3月31日まで	
PS・フィールド	4,031	8,133	+101.8
スポーツエンタテインメント・フィールド	△537	△324	—
モバイル・フィールド	455	393	△13.6
その他・フィールド	△584	△70	—
ゲーム・フィールド*1	△1,289	—	—
映像・フィールド*2	△95	—	—
消去又は全社	(19)	(7)	—
合計	1,960	8,124	+314.5

*1 従来のゲーム・フィールドは、子会社の売却等により消滅しています。

*2 従来の映像・フィールドは、前連結会計年度において消滅しています。

連結損益計算書

(単位:百万円)

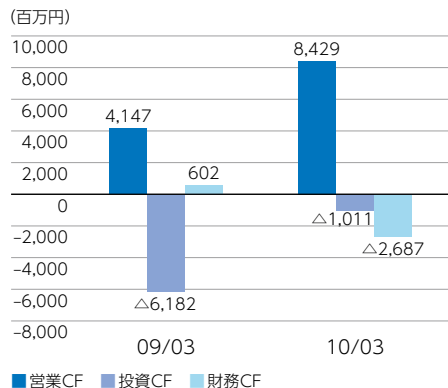
科目	前連結会計年度	当連結会計年度	増減率 (%)
	2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2009年4月1日から 2010年3月31日まで	
売上高	73,035	66,342	△9.2
売上原価	49,010	39,452	△19.5
売上総利益	24,024	26,889	+11.9
販売費及び一般管理費	22,063	18,764	△15.0
営業利益	1,960	8,124	+314.5
営業外収益	528	484	△8.3
営業外費用	1,497	846	△43.5
経常利益	991	7,761	+683.1
特別利益	269	53	△80.3
特別損失	3,840	597	△84.5
税金等調整前 当期純利益又は 税金等調整前 当期純損失(△)	△2,579	7,218	—
法人税、住民税及び 事業税	388	3,616	+832.0
法人税等調整額	△514	284	—
少数株主利益又は 少数株主損失(△)	△971	29	—
当期純利益又は 当期純損失(△)	△1,481	3,289	—

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度	当連結会計年度	増減額
	2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2009年4月1日から 2010年3月31日まで	
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,147	8,429	+4,282
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,182	△1,011	+5,171
財務活動によるキャッシュ・フロー	602	△2,687	△3,289
現金及び現金同等物に係る換算差額	△79	△4	+75
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,512	4,725	+6,237
現金及び現金同等物の期首残高	12,693	11,181	△1,512
現金及び現金同等物の期末残高	11,181	15,906	+4,725

連結キャッシュ・フロー



連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(2009年4月1日から2010年3月31日まで)

(単位:百万円)

科目	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2009年3月31日残高	7,948	7,994	25,808	△1,330	40,420	△956	△0	△957	32	39,496
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当	—	—	△1,513	—	△1,513	—	—	—	—	△1,513
当期純利益	—	—	3,289	—	3,289	—	—	—	—	3,289
自己株式の取得	—	—	—	△454	△454	—	—	—	—	△454
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	280	0	280	89	369
連結会計年度中の変動額合計	—	—	1,775	△454	1,320	280	0	280	89	1,690
2010年3月31日残高	7,948	7,994	27,583	△1,785	41,741	△676	0	△676	122	41,187

(注:増減額及び増減率については、表上計算しています。)

コーポレートデータ

会社概要

(2010年3月31日現在)

商号	フィールズ株式会社 (英文社名: FIELDS CORPORATION)
企業理念	「すべての人に最高の余暇を」
設立	1988年6月
本社所在地	〒150-0044 東京都渋谷区円山町3番6号 E・スペースタワー
事業内容	1. 遊技機の企画開発 2. 遊技機の仕入、販売 3. キャラクター、コンテンツの企画開発、販売 4. 映像ソフトの企画開発、販売
資本金	7,948百万円
従業員数	909名(連結)
連結対象会社	フィールズジュニア(株) 新日テクノロジー(株) (株)F ジャパン・スポーツ・マーケティング(株) (株)フューチャースコープ ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株) 他 5社

役員

(2010年4月1日現在)

代表取締役会長	山本 英俊
代表取締役社長	大屋 高志
専務取締役(グループ事業管掌 兼 事業本部長)	繁松 徹也
専務取締役(PS事業管掌)	秋山 清晴
常務取締役(開発本部長)	栗原 正和
社外取締役	糸井 重里
取締役(計画管理本部長)	山中 裕之
取締役(コーポレート本部長)	伊藤 英雄
取締役(営業本部長)	藤井 晶
取締役(会長室長)	末永 徹
社外監査役 常勤	松下 滋
社外監査役	小池 敕夫
社外監査役	古田 善香
社外監査役	中元 紘一郎
執行役員(コーポレートコミュニケーション室長)	畑中 英昭
執行役員(開発本部副本部長)	藤島 輝男
執行役員(計画管理本部副本部長 兼 同本部財務・予算部長)	小澤 謙一
執行役員(営業本部支店統括部長)	若園 秀夫
執行役員(事業本部事業推進部長 兼 エグゼクティブプロデューサー)	小澤 洋介
執行役員(計画管理本部財務・予算部担当部長)	糟谷 総一

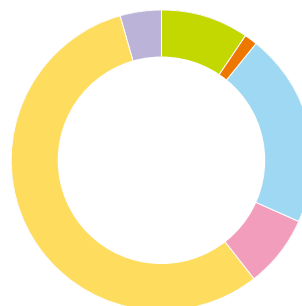
株式情報

(2010年3月31日現在)

株式状況

発行可能株式総数	1,388,000株
発行済株式総数	347,000株
自己名義株式	14,885株
株主数	10,828名

所有者別株式分布状況



● 金融機関	9.48%
● 金融商品取引業者	1.38%
● その他国内法人	21.03%
● 外国法人等	7.58%
● 個人・その他	56.24%
● 自己名義株式	4.29%

大株主

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
山本 英俊	86,750	25.00
(株)SANKYO	52,050	15.00
山本 剛史	36,128	10.41
(有)ミント	16,000	4.61
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	12,898	3.72
資産管理サービス信託銀行(株)(証券投資信託口)	5,982	1.72
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	4,735	1.37
大屋 高志	4,500	1.30
NCT信託銀行(株)(投信口)	3,500	1.01
ゴールドマン サックス インターナショナル	2,478	0.71

*当社所有の自己名義株式は除いています。

当社IRサイトにおける表彰、リニューアルのお知らせ

当社IRサイトが、日興アイ・アール発表の2009年度全上場企業ホームページ充実度ランキング「最優秀サイト」(総合ランキング選定、新興市場ランキング7位)、大和インベスター・リレーションズの「2009年インターネットIR・優良企業賞」に選定されました。

いずれの表彰とも、以前から引き続いての受賞となり、IR活動の一環としてのWebサイトの充実が客観的・継続的に評価されていることを大変荣誉に感じています。

2010年5月には、よりわかりやすく使いやすいIRサイトを目標してデザインを一新し、新しい機能の追加やコンテンツ構成の見直しを行いました。

今後も株主並びに投資家の皆様へ、よりお役立て頂ける情報提供とコミュニケーションの場作りを心掛けていきます。



サイトリニューアルのポイント

- ページナビゲーション機能の向上
- 印刷機能の充実
- モバイルIRサイトの開設
- IRコラム・IRアンケートの新設

新しくなったフィールズのIRサイトを、是非ご覧ください。

<http://www.fields.biz/ir/j/>



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	
定時株主総会・期末配当	毎年3月31日
中間配当	毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行(株)
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行(株) 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-78-2031(フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行(株)の全国各支店並びに日本証券代行(株)の本店及び全国各支店で行っております。
上場証券取引所	大阪証券取引所(JASDAQ) 証券コード:2767
公告方法	電子公告 URL http://www.fields.biz (事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

- 住所変更のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行(株)にお申出ください。
- 未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である中央三井信託銀行(株)にお申出ください。
- 「配当金計算書」について
配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用頂くことができます。
なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、本年より配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させて頂いています。
*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

第三者による フィールズの分析レポート



モーニングスター 株式会社
記者 宮本 裕之

当社は「中立・客観的立場から有益な金融情報を提供し、投資家の資産形成に役立つこと、投資家主権の確立に貢献すること」を目標としています。国内外の投資信託及び株式を中心に、HPや日刊の株式新聞を通じ、企業情報や分析レポート等の情報を投資家の皆様に提供しています。

宮本 裕之

2006年に旧株式新聞社に入社。記者として、個別企業やマーケット取材を担当。モーニングスターに転籍後は新興企業を中心に企業分析レポートを執筆。

フィールズ(株)は、現在利益の大部分をPS事業が占めており、主力遊技機の投入時期や遊技機市場の動向に業績が大きく影響される特徴があります。ただ、独自のビジネスモデルを有し、進化を怠らない企業体質を持つ同社には短期的な変動はあっても、中・長期的には大きな成長が見込めると考えています。特に同社の強みであるコンテンツビジネスを拡大させている点は、今後PS事業だけに頼らない同社の姿勢の表れといえ、すでにその効果としてグループ事業ではコンテンツを中心とした事業間のシナジーにより、収益性が改善されつつあります。

同社のビジネスモデルの核となるのが優良IP(知的財産)で、その最たる例が「エヴァンゲリオン」(以下エヴァ)です。「エヴァ」シリーズが同社にもたらした恩恵は計り知れませんが、今の「エヴァ」の社会現象を見ても、各分野で様々な経済効果を導き出す大きな要因となりました。今後において同社が持続的に成長するためには同シリーズに匹敵する優良IPの確立が重要な課題となっていますが、足元ではその動きが加速しているように見えます。

2010年に入り同社が保有する豊富なキャッシュを背景に、「ウルトラマンシリーズ」を有する(株)円谷プロダクション、国内CG(コンピュータ・グラフィックス)制作大手の(株)デジタル・フロンティアを子会社化しています。CGは魅力的なコンテンツを作り出すためには必要不可欠なツールです。さらに、(株)小学館クリエイティブと共同で出版事業を手掛ける(株)ヒーローズの設立も発表しており、ペーパーコンテンツから端を発し、新たな優良IPを創造・育成していく取り組みも行っていく方針です。この中から「エヴァ」に匹敵、もしくはそれを超える優良IPが誕生する可能性は十分あるでしょう。

現在のIPはPS事業向けが主体となっていますが、優良IPの源泉確保や加工技術の整備に伴い、今後はコンテンツのマルチユース化も進むと見られ、エンタテインメント事業を中心としたPS事業以外の収益拡大にもつながる公算が大きいでしょう。また、PS事業においても、設立当初は販売商社として設立された経緯がありメーカーへの依存が大きかったものの、その後はIPの取得、企画・開発の取り組みを順次行い、メーカーへの依存リスクを低減しています。今後は、製造組み立て以外の工程をすべて自社で行うファブレス(工場を持たない)モデルの強化に向けて、遊技機の映像ソフトウェア開発を行う(株)F(エフ)の事業も本格化させる計画となっており、同社の理想とするファブレス化がさらに進むでしょう。

優良IPの拡大とファブレスモデルの確立という事業の両輪が整いつつある同社に、成長の余地は大きいと見られます。株主還元の一環である配当を重視している点や投資家に積極的に情報を開示するIRの姿勢は市場で高い評価を受けており、さらに、これからの企業活動の重要な要素となるCSR(企業の社会的責任)への取り組みに重きを置いている点も評価に値します。



Gaming and Entertainment

www.fields.biz

すべての人に最高の余暇を

／ 企業理念への想い

VOICE

私たちは近い将来、来るべき未来に向けてエンタテインメント性の高い商品やサービスを通じて、世の中の人々が心から楽しめる環境を創り出していきます。そして、すべての人の幸せ、また社会の幸せに寄与できるのであれば、私たちの企業理念である「すべての人に最高の余暇を」を実現できると考えています。

私たちフィールズの企業活動を深くご理解、ご支援頂いている多くの株主の皆様にご礼を申し上げますとともに、そのご期待に応えるため今後も未来に向けた積極的な挑戦を続けてまいります。

文・表紙文字=専務取締役 繁松 徹也

IRお問い合わせ先

フィールズ株式会社
コーポレートコミュニケーション室 IR課
Tel: 03-5784-2111
Mail: ir@fields.biz



古紙100%再生紙

地球の未来と生まれてくる子供たちのために、
古紙100%再生紙をより身近なものに。